

特集 医療従事者のメンタルヘルス——総合病院におけるメンタルヘルスケア——

医療従事者のメンタルヘルス——総合病院におけるメンタルヘルスケア——

黒木 宣夫

本シンポジウムでは、病院に勤務する専門職の代表である医師、看護師、臨床心理士の立場から、「医師のための産業医の意義」として聖路加国際病院精神腫瘍科の保坂隆教授、リエゾンナースとしての立場から「看護師のメンタルヘルス支援」として横浜市立市民病院看護部の福嶋好重看護師、「総合病院における職員のメンタルヘルス支援——カウンセラーの立場から——」として亀田総合病院臨床心理室の富安哲也室長に報告していただき、衛生委員会・健康管理の立場から「総合病院におけるメンタルヘルスケアの実践」として筆者が報告し、医療安全の立場から「医療安全とメンタルヘルス」として北里大学産業精神保健学の田中克俊教授に報告していただいた。

各シンポジストの要旨を以下にまとめた。

保坂氏より「医師のストレスは、喫緊の国民的な問題である医療崩壊の原因の1つであることは間違いない。その意味では、医師を増やしたり、診療報酬上の優遇をしたり、労働条件を緩和したりする方法に加えて、医師の精神的重圧感を軽減し、身体的問題やメンタルヘルス的な問題を早期発見し、自尊心も傷つかない方法で、専門家の治療やアドバイスを受けられるようなシステムの構築が必要である」と報告した。

福嶋氏は、「当院ではリエゾン精神看護専門看護師は、看護部長の直属のスタッフポジションにあり、指示命令システムのライン外に位置づけられて

いる。業務評定とは無関係なので、看護スタッフにとっても看護師長にとっても、利害関係のないところで自分の悩みを話せる相手となることができる。看護師個人やグループ面接をすることに加えて、コンサルテーションや教育機能を生かして、看護師支援に関するスタッフや看護師長への相談活動や、支援を推進するための環境調整を行っている。特に復職後の支援においては看護師個人のみならず、看護チーム全体を視野に入れた働きかけが重要である」と報告した。

富安氏は、「産業医や専属の相談員・保健師の不在、それぞれの部署・職種の独立性の高さといった病院の特徴を挙げ、次に病院における職員のメンタルヘルス支援の具体的なものとして、相談活動を中心に、院内関係者、特に人事課と協同して様々なシステム作りを行ってきた」と報告した。また、総合病院の中でカウンセラーの立場としてメンタルヘルス支援を行っていくための注意点をいくつか挙げた。

筆者は、総合病院に勤務する医療従事者のメンタルヘルスは、専門職がゆえの配慮や夜勤などの業務内容や勤務に関する配慮が難しいことは言うまでもないが、総合病院における一次予防としてのストレスチェックの結果を職種、部門別に分析し、2005年4月～2011年9月までの相談室の来室者92名の職種、来室経路、発症から相談までの期間の報告をし、メンタルヘルスケアの留意点

第107回日本精神神経学会学術総会=会期：2011年10月26～27日、会場：ホテルグランパシフィック LE DAIBA、ホテル日航東京

総会基本テーマ：山の向こうに山有り、山また山 精神科における一層の専門性の追求

シンポジウム 医療従事者のメンタルヘルス——総合病院におけるメンタルヘルスケア—— 座長：荒井 稔（東京臨海病院精神科）、夏目 誠（大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科） コーディネーター：黒木 宣夫（東邦大学医療センター佐倉病院精神神経医学）

を述べた。

田中氏は、医療エラーの防止は、患者の安全性確保のために欠くことができない重要な課題となっている本シンポジウムでは、看護師の医療エラーに関するいくつかの検証的な因果関係モデルを示しながら、看護師のメンタルヘルスの改善が直接的・間接的にどのような形で医療エラーの防止に寄与するかを検討し、メンタルヘルス教育や高

照度光療法の利用が医療エラーを減少させる可能性について述べた。

全体の討論では、人々の健康を守る医療機関でありながら、医療機関に働く人々の健康を軽視しているという結果が得られたが、総合病院の病床規模に合わせてメンタルヘルスケアの確立を目指すべきであろう。